

安全にトラックに乗っていただるために

タイヤの点検を忘れずに

JAFの2024年度の出動理由としてタイヤのパンク・バーストがとても多く、特に高速道路においてはトップです。タイヤがパンク・バーストすると走行安定性が著しく低下し、特に高速道路では重大な事故につながります。走行前には必ずタイヤの空気圧の点検を行って安全運転に努めましょう。

JAFロードサービス 主な出動理由TOP5(2024年度)

◆一般道路

順位	故障内容	件数	構成比
1	過放電バッテリー	755,785	35.31
2	タイヤのパンク・バースト、エアーエアーパンク不足	427,833	19.99
3	破損／劣化バッテリー	185,855	8.68
4	落輪・落込	132,452	6.19
5	キー閉じ込み	106,995	5.00

◆高速道路

順位	故障内容	件数	構成比
1	タイヤのパンク・バースト、エアーエアーパンク不足	26,219	42.27
2	燃料切れ	5,843	9.42
3	事故	5,032	8.11
4	過放電バッテリー	2,864	4.62
5	発電機／充電回路	1,439	2.32

出典:「JAFロードサービス 主な出動理由TOP10 2024年度 年間『四輪・二輪合計』」より抜粋



タイヤの状態を確認(目視で確認)

1 タイヤ接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるか点検します。

◆扁平タイヤは外観からでは空気圧の判断がしにくいため、必ずエアゲージで点検します。

※空気圧の点検・調整は、必ず走行前のタイヤが冷えている状態で行います。また、走行直後はタイヤの発熱により、内部の空気が膨張するため、約1割ほど空気圧が高くなっていますが異常ではなく、タイヤが冷えれば正常値に戻ります。

◆空気圧が不良のときは、標準空気圧に調整します。

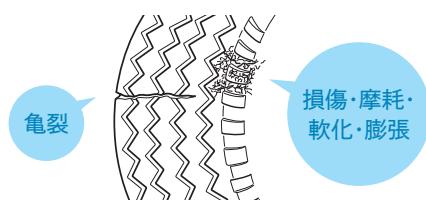
※タイヤの標準空気圧は、運転席側ドアピラー部に貼り付けられたコーションプレートに示してあります。
※タイヤの空気圧は自然低下するため、月に1度はエアゲージで点検します。



2 タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないか、また極端にすり減っている箇所がないかを点検します。

3 タイヤにくぎ、石、その他異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか点検します。

異常があるときは、新品タイヤに交換してください。



4 スペアタイヤの空気圧が適当であるか点検します(エアゲージを使用すると、正確に点検できます)。

※年に1度は、スペアタイヤの空気圧をエアゲージで点検します。



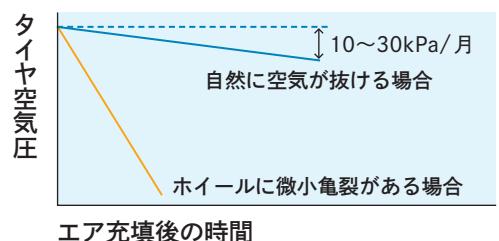
空気圧が低すぎるとタイヤが過熱し、バースト(破裂)事故につながる恐れがあります。また、空気圧が高すぎたり低すぎたりすると乗り心地が悪くなり、積荷も痛みやすくなります。

アドバイス

ダブルタイヤの内側と外側では、空気圧の差をつけないでください。

タイヤ空気圧の変化

タイヤのエア圧は時間経過と共に自然に低下します。これは、タイヤの分子より空気の分子が小さいためです。大型トラック用のタイヤの場合、自然に空気が抜ける速度は、1ヶ月で10~30kPa程度です。タイヤやホイールに亀裂、穴あき等の不具合がある場合は、空気が抜ける速度は、早くなります。日常点検でエア圧を正しく点検することにより、タイヤやホイールの不具合を早期に発見可能です。



点検・整備についてご不明点などございましたら、お近くの三菱ふそうサービス工場にお問い合わせください。